

教職大学院ニュースレター

待望の第4号発刊

大変ながらくお待たせ致しました。『教職大学院ニュースレター』第4号、教職大学院開設10周年記念号として、ここに発刊!!

4

Winter 2018

おめでとう!! 教職大学院 開設10周年

☆教職員よりお祝いメッセージ☆

吉川 成司（教職研究科長）：「次の新たな10年に向けて、創価大学教職大学院指針を深めゆく一人ひとりでありたいと心に誓っています。」

石丸 憲一（教職研究科長補佐）：「日々着々と伝統が築かれていくさまを見てきました。紛れもなく、関わった全ての方の思いが詰まった教職大学院ですので、これからも精一杯大事にしていきたいと思えます。」

長島 明純：「修了生と在學生、教員が更に連携を取りながら、社会に貢献できる実践、また創価教育を共有しながら発展していくことを願っております。」

桐山 信一：「教職大学院開設10周年おめでとうございます。私は、今年度で退職ですが、今後の発展を見守っていきます。」

宮崎 猛：「あっという間の10年。修了した皆さんの顔が浮かびます。人が縁をつくり、縁が人をつくる。お互いに、これからもあの日あの時の出会いを大切に、そして育てていきましょう。」

田村 修一「『君子の三樂』の一つが、天下の英才を育てること。日々、意欲的な学生と一緒に学ぶことに感謝。」

寺林 民子：「教職大学院開設の年の2008年3月16日、創立者から『教職大学院指針』が示されました。本学教職大学院の人間像が明確になり、魂が入れられた瞬間と感じました。この原点をいよいよ各人が具現化する時と。」

若井 幸子：「教職大学院開設10周年、本当におめでとうございます。理論と実践の往還の体現者である院生の皆さんの活躍の舞台が広がっていますね。皆さんの大活躍を応援していきます。」

鈴木 詞雄：「教職大学院を創った先生方と10期生までの学生の想いを大切に、新しい10年が輝くために全力を尽くします!」

島信行（事務長）：「教職大学院開設10周年、誠におめでとうございます。更に教職学が一体となり、日本一の教職大学院にしていきたいと思います!」

吉村 隆幸（副課長）：「教職大学院開設10周年という佳節に、教職大学院チームの一員に加えて頂きました。共々に新たな歴史を築いて参りましょう!」

豊田 茂樹（主任）：「開設10周年の時に職員として携わらせて頂けることに感謝しております。これからも益々の発展のため、全力で頑張ります!」

上野 みさえ：「1期～10期の皆さまの笑顔!をいつも思い出します。10年の佳節を喜び、次への発展へ心を込めて努めていきます。」

小田 勝巳：「授業のなかで、価値をどのように創造するか。これが創価大学教職大学院の原点だと思いますので、その目的に、わずかながら寄与してまいります。」

近藤 茂代：「今後も、人格を磨き続け、学び続ける教員が陸続と輩出されることを心から期待するとともに応援させていただきます。」

三津村 正和：「皆さんのお近くの優秀な教員、学生を是非教職大学院へ。ニュースレター編集部員と記事投稿者（修了生含む）常時募集中ですので、宜しくお願いします。」

創価大学教職大学院は、定期的に「入試説明会」を開催してるよ。お友だちにどんどん紹介してね!! 詳しくは、kyoshoku-d@soka.ac.jp までメールしてね!!



平成30年度より創価大学教職大学院に、待望の「中学校教諭専修免許課程」が認可されました!!

平成30年4月の開設を目指し、文部科学省に課程認定申請をしていた教職研究科教職専攻の中学校教諭専修免許状課程が認定されました。平成30年4月入学生より、所定の科目・単位を修得し、研究科を修了すれば、中学校教諭専修免許状が取得できるようになります。

なお、取得できる免許教科は「国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・保健・技術・家庭・職業・職業指導・宗教・英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語」です。専修免許取得のためにはこれらの教科の一種免許状が必要となります。なお、小学校専修免許状の課程は、これまでどおり開設しております。



修了生、あの人は今



今回は、人間教育リーダーコース修了生である小畑伸一さんにインタビューをさせて頂きました（都内某所にて）。お忙しい中、インタビューに快く応じて頂いた小畑さん本当に有難うございました!!

一大学院に入ろうと思ったきっかけは何だったんですか？

1つは、母校でもう一度学びたいという気持ちですね。現場で働く中で、自分自身の指導力、教育現場自体の問題点などの教育課題をどうにかしたいという気持ちがありました。でも、現場だと学べる場がなかったんです。もう1つは同じように大学院を修了していた教員仲間の存在です。行こうと思う気持ちはあったけど最後に後押ししてくれたのはその同期や先輩たちでした。自分の学びたいという気持ちだけでは、大学院に行こうという決断はできなかつたと感じています。それに、教員としての区切りも良かったんですよ。前年度は6年生の担任をしていて、ちょうど卒業を迎えられていたので。

一大学院を修了してから、苦労したことはありますか？

苦労自体はないですよ。学生としての生活から、現場の仕事のリズムへも一カ月くらいで戻りました。もちろん、最初は疲れましたが（笑）。

一逆に大学院に行ってこれは良かったと感じることはありますか？

子どもの見方が変わったことですね。僕の専門は算数なんですけど、指導方法や研究方法は現場でも教えてもらう機会は多くて、それは分かるんです。でも、今日目の子どもが何で困ってて、どんなことに悩んで、それを解決するためにはどうしたらいいのかを理論的に教えてくれる場が少ないんです。教職大学院に進学して、理論的にも様々な面から子どもを見ることを学びました。だから、大学院では、自分の知らない学問がまだまだあるって本当に実感しました。学べるものがたくさんあるということは、自分はまだまだ成長できるってことだと感じていました。要するに、視野が広がったってことですかね。



オレオを手に取る小畑さん

一現場に戻ってから研究を進めるためのモチベーションを保つ秘訣ってなんですか？

研究者の視点をもって実践をしていきたいという思いですかね。例えば、大学の先生がそう言うからその理論は正しいんだって鵜呑みにするのではなくて、自分でしっかり考えた上で理論を現場で実践していける教員になりたいと思っています。授業が成功したとか、運動会が良かったとかでは満足しないんです。この間も引率した5年生の移動教室で子どもたちは感動の涙を流していました。でも、そんな移動教室を作れて良かったで終わらない。なぜ感動したのかを考えて、そしてその理論を一般化してみるんです。だから、理想は牧口常三郎先生ですよ。あの人は実践家であり、管理職であり、研究者だった。そして、何よりも子どものことを愛していた先生が牧口先生だと思うので。その思いが一番のモチベーションですね。

一最後に在学生へメッセージをお願いします。

知識は無理矢理にでも詰め込んだ方がいいです。全然あたまでっかちでいいと僕は思います。あとはストレートマスターで来ている院生と現職教員として来ている院生の関係性を大切にしたいですね。そのつながりの中で「横の連携」をどのようにできるかを学んだ方がいいと思います。どうしてその両者が一緒に学ぶこの大学院で僕たちは成長できるのか。そこで学んだことは教員になってからも活かせるとても大切なことだと思います。

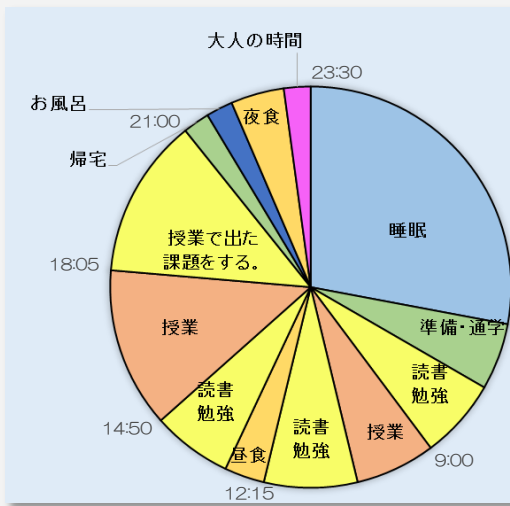
密着：現役生の一日常

入試説明会には教員だけでなく、現役生も参加します！全国で唯一となる専用棟「教職大学院棟」の施設内ツアーも（希望者）。一度、遊びに来て下さいね。



大元弘之（おおもとひろゆき）
プロコース2年制（現2年在籍）
座右の銘：
『幸せとは、自分から始まり、他の人々への貢献で終わる』

ジリジリ〜。彼の一日は、6時15分の目覚まし音から始まる。今日もまた、一流の小学校教諭になるための生活が始まる。通学時間は、約15分と大学からほど近い家に住んでいるが、彼の家を知る者はほとんどいない。取材陣は、謎多き、しかし皆が愛して止まない「大元ひろゆき」の日常に迫った。▼密着取材日。この日は、1時間半の授業が3コマあり、その間の時間は、ほとんどを勉強に割いていた。彼は、「一番勉強が充実していた日を選んだ。」と言っていたが、取材陣の見限りのみでは、ほとんどの日がこのようなスケジュールであった。（自主勉強の時間に、You Tubeでお笑い芸人の渡辺直美の動画を見て、にやついているときも多々あるが。）読書・勉強の時間では、英語力を上げる勉強をしたり、授業力についての本や、自己啓発書、小説など様々な本を読んだりして、知識・人間力を向上させている。▼授業の課題は、プレゼンテーションの準備や模擬授業の前であれば多くなることもあるが、授業外にグループでの活動や話し合いがほとんどであり、大学院の仲間と切磋琢磨し成長することができる。▼23時から23時30分の間の「大人の時間」については、彼のプライベートのことであるので、追及するのをやめたため、何をしているかは不明である。▼そして就寝し、また6時15分の目覚まし音から彼の一日が始まる。明日もまた、自分から始まる幸せを子どもたちに届ける教員になるために、成長の日々を送っていくのだ。大元ひろゆきの挑戦は続く。



日中友好



教職大学院・教育学部は、2015年度より「中国
教育研修」を共同で実施しています。この研修は、本学と学
術交流協定を締結している中国の首都師範大学初等教育学院
とのグローバル交流活動の一環であり、グローバル化に対応
しうる教員の養成を目的としながら、日中両国の教科教育の
理論と実践を学ぶプログラムが大きな特徴となっています。
研修プログラムは大きく3つの学びからなります。まず、
研修チームは、北京市内の複数の小学校を訪問し、各教科の
授業実践を見学します。次に、首都師範大学初等教育学院の
専門家教員による中国の小学校における各教科教育の基盤と
なる教育理論と社会背景に関する講義を受け、日本の各教科
教育と照らしながら討議します。最後に、この研修に参加
した学生で1つの教科、あるいは2つの教科の1単元ごとの



授業を準備し、北京の小学校で授業実践を行います。
昨年度の中国教育研修は2週間の期間で行われ、学部生2
名、教職大学院生3名の計5名が参加。まず、中国の小学校
2校を見学。次に、首都師範大学初等教育学院で、中国の国
語科、算数科、理科、英語科、道徳教育などの理論と歴史
的な変容を学びました。最後に、北京郊外にある小学校で5
名の学生による算数科と英語科の授業実践を行いました。

参加した学生からは、「中国の理論と実践を学び、さま
ざまな価値観や教育観を知るための有意義な時間を過ごすこ
とができました。そして何よりも創始者が築かれた日中友好
の「金の橋」が、平和の大潮流となって今も続いていること
を実感するよい機会となりました。」との声が寄せられてい
ます。まさにグローバル・マインドを養成するための意義深
い教育研修であるといえましょう。ぜひとも、今を生き、こ
れからを担う教育者を目指す学生には、この「中国教育研修」
に参加して頂きたいと思ひます。

創始者の日中友好「金の橋」に思いを馳せて。



●教職大学院修了生の活躍
安村晃子さんの本紹介コラム

著者略歴：安村晃子 創価大学教育学部卒業。大阪市の小学校教諭として採用されて15年目。2014年度から2年間、長期自主研修支援制度を利用して創価大学教職大学院へ進学。2016年度から現場に復帰し、大阪の小学校で担任をしている。

大阪市の教員として働く中、創価大学で受講した教員免許更新講習で、同期の活躍する姿に触れ、自身の力のなさを実感し、長期自主研修支援制度を利用して、創価大学教職大学院に進学する。2年間学んだ後、自身初となる本『学級が落ち着く 教室の整理・収納・動線のルール』（学事出版）を2017年3月に出版する。▼なぜ本の出版に至ったかの経緯を尋ねてみた。
「もともと私は、物を使いやすいようにするにはどうしたらいいのか、効率よく物事をすすめるためにはどうしたらいいのかを考えることが好きで、今まで取り組んできた実践を聞いてくださった教職大学院のある先生が『それは教育的価値がある！』と評価をしてくださり、出版社の方につなげてくださいました。出版社の方も、『これまでに教室の整理・収納に関する本は出ていないから面白い！』と言ってくださり、トントン拍子に話が進んでいきました。」と語る。▼あなたの教育観についてどう考えているかを尋ねてみたところ、「2年間の大学院生活の中で、それまでの自身の教育を振り返り、たくさん反省しました。現場に戻り、少しずつその反省を活かしながら子ども達と関わっていますが、現在、未だかつてない大きな壁と向き合う日々です。負けそうになりますが、子ども達と共に自分も成長していく『共育』を目指して頑張っています。」と答える。▼教師は、目の前の子ども（人）の幸せのために、日々、自分の心の弱さと向き合い戦っている。それを何度も繰り返し挑戦している安村晃子さんだからこそ放つ切実な言葉がある。清新の息吹が漲る教師の姿がそこにあった。▼内容：「教材や学習用具で雑然となりがちな教室も、整理・収納・動線のルールを決めることで、もめごとやケガが減り、学級の雰囲気が落ち着いていく」という考えから、道具別、場面別にそれぞれのルールをまとめた内容になっている。たとえば、絵の具セットや裁縫セット、体操服、とび縄の収納の仕方、ノートの提出のさせ方や給食当番のさせ方などがある。コピーして使える付録付き。



教職大学院生は、旅行先でも学ぶ。

創価大学が各テレビ局ドラマの撮影地に!!

代表的な作品は下記の通り。

▷テレビ朝日木曜ドラマ「BG 身辺警護人BODYGUARD」(第1話)、撮影場所:中央教育棟B2Fエントランス外観、主な出演者:石田ゆりこ、江口洋介、阿部進之介など

▷TBS日曜劇場ドラマ「99.9-刑事専門弁護士-SEASON II」(第1話、第2話)、撮影場所:中央教育棟B2Fエントランス、本部棟会議室、中央図書館、短大2F廊下、主な出演者:松本潤、香川照之、木村文乃など

▷日本テレビドラマ「トドメの接吻」(第3話)、撮影場所:創大門、シルクロード、中央教育棟4F廊下、グランカフェ、A棟ロビー、主な出演者:山崎賢人、新田真劍佑、新田優子など

<山口旅行道程>

- 【1日目】
日清講和記念館
→壇ノ浦・長州砲台
→関門海峡・門司港
- 【2日目】
秋芳洞→カルスト台地
→松下村塾
→野山獄・岩倉獄
→明倫館
- 【3日目】
東行庵→角島
→巖流島

150周年と聞いて、何を思い浮かべるだろう。来年は、明治維新から150年目を迎える年である。学校で習ったのを最後に、忘れてしまっている方も多いかも。しかし、日本の小学校が始まったのも、日本が世界に歩み出したのも、まさにこの明治時代である。明治維新なくして今の日本はない。

今回は、大学院生の旅行に潜入する。舞台は、明治の歴史が詰まる山口県。吉田松陰が生まれ育った地である。松下村塾を開き、数々の明治の立役者たちを育てた。世界を見据えつつ、今起こっている問題に向き合い続ける姿勢。生徒一人一人のことを思い、どこまでも寄り添い続ける姿勢。こうした教育観・生き方が、150年の時を越えて伝わってくる。歴史に想いを馳せながら、今の自分を見つめ、これからのことを考える。旅行もまた、学びの一つなのだと思われたい。みなさんも、150年という節目に明治時代を感じる旅に行かれてみてはどうだろうか。

松陰は辞世の句でこう残している。「身はたとひ 武蔵の野辺に 朽ちぬとも 留め置かまし 大和魂」今もなお生き続けるその志から、私たちは学ぶのである。



↑松下村塾

↓角島大橋



↑壇ノ浦・関門海峡

教職大学院には、授業以外にも素敵な「学びの場」がいっぱい。



これまで教職大学院建設に携わられた全ての方々の熱意が、10周年に込められています。ニュースレター完成にご協力いただき、本当にありがとうございました。私たちは今、この意義深い時に集い合えたことに不思議な縁を感じると共に、深い決意をしています。

吉田松陰の辞世の句
『親思う 心にまさる親心
けふのおとずれ
何とときくらん』

創立者池田先生は、いつも『お父さん、お母さんを大切に』とおっしゃっています。報恩感謝の気持ちを忘れずに、教職大学院の新たな歴史を刻む一歩を踏み出していきます。(編集長)

百円をもってキャンパスへ出かけよう!!



100円があれば何ができるだろう。100均では、ギリギリ買い物ができない(残念)。八王子から隣駅の西八王子へ行くには、数十円足りない。しかし、創価大学では100円で朝食が食べられます!信じられません!気になるメニューですが、ニュープリンス、ニューロワールの各食堂で、それぞれ日替わりになっています。写真を見てもわかる通り、どのメニューも100円とは思えないボリュームです。そして、どのメニューも抜群の美味しさです。

朝の食堂の様子はというと、新聞を読みながら優雅に朝食をとる人、友と語りながら清々しく朝食をとる人、ミーティングをしながらせわしなく朝食をとる人たちなど、多くの学生で賑わっています。なにより、朝早くから朝食の準備をしてくださっている食堂の方々が暖かく迎え入れてくれます。今日も一日頑張ろうと思える場所です。朝から頭をフル回転させる大学(院)生の味方「100円朝食」を、ぜひ味わってみてください。

教職大学院生Aさん「100円で焼き魚食べれるって、嘘でしょ!!ワ〜オ。行ってみよーかどー。」



教職大学院ニュースレター
第4号編集部

【編集長】
山平妙子(たえママ)

【編集部】
高根淳子(たねちゃん)
櫻井澤(みおちゃん)
佐藤友彦(サトユー)
北岡光一(コーチ)
神田慎太郎(たろう)

あなたもニュースレター作りに参加してみませんか?

<編集部員・記事投稿者募集>

編集部員の大量卒業につき、またもや編集部員不足。記事の執筆や編集・校正に興味のある方は、mitumura@soka.ac.jp までご連絡を。将来の「学級通信」作りに役立つこと間違いなしですよ!